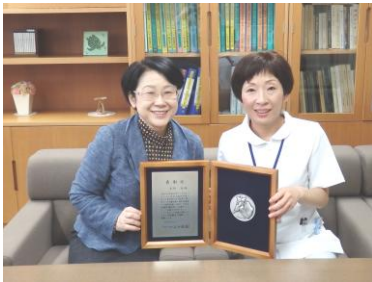




## ベトナムでの医療ボランティア活動で表彰された菅野さんよりお話をお聞きしました



### 菅野さんの業績は

5-2 ナースステーション菅野香副看護師長は特定非営利活動法人日本口唇口蓋裂協会が行っているベトナム医療援助活動を平成13年から計8回行ってきました。平成25年ベトナム社会主義国共和国より表彰され、平成26年度北海道大学職員表彰を受賞し、総長より表彰をされました。(詳しくは北大病院ホームページをご覧ください。)

### ベトナムでの活動は

スタッフの総勢は医師(歯科・麻酔科・形成外科医)・看護師・学生さん・通訳さんなど合わせて、50人くらいです。琉球大学、九州歯科大、旭川医科大など全国の大学から集まります。日本のボランティアが使用できる手術室は3室で、1日1室4件位、計12件以上の手術を5日間、朝6時半から夜の8~9時まで、1例でも多くの手術を行います。

### 菅野さんの役割は

私の役割は手術室と中央材料室の調整役です。手術で使用した器材を洗浄後、セットし滅菌担当者へ依頼し、滅菌後の器材を受け取ります。手術の内容や経過をみて、スタッフの配置を調整します。また、通訳さんや宿舎の食事担当の方など、スタッフの生活全般にわたる、調整役を担当しています。手術に関するボランティア活動だけでなく、宿舎での食事時間の調整、障害児訪問、手術前の買い出しなど、実際の手術以外でも、様々な調整を行っています。現地宿舎の担当者への配慮など、皆が一つの目標「患者さんを一人でも多く手術をして助ける」に向かって、より効率的に全体の手術が進められるように、各人が役割を果たせるようマネジメントしています。現地では医師や看護師皆に「隊長」と呼ばれています。

### コミュニケーションは

ベトナムでは通訳さんが5人位、寝食を共にして対応してくれます。私はジェスチャーと笑顔で現地の担当者とコミュニケーションをとり、案外通じるものです。

### 今後については

私は今まで自分に余裕がなく手術室看護師としての直接介助や器材準備などを担当していましたが、去年から回復室の術後の生活指導を考え、現地の看護師にも指導をしていきたいと考えています。今後も自分の役割を見つけ、チャレンジしていきたいです。この活動に参加するには手術室経験は必要ではなく、最初はどんな活動をしているのかという興味や、人々の役に立ちたいという気持ちがあればよいです。やるからには楽しくがモットーです。(笑)

## 1年目看護師自身が主催し皆で学べる学習会【4-2】

学習会の目的は、1年目看護師が臨床で経験する機会が少なく今後実践できない可能性がある項目について、実技を含めて学習する事としています。今年は副院長から「臥床患者のシーツ交換」「無菌操作」「包帯法」の課題が提示されました。2年目看護師は監修という立場で、去年の経験をもとに、1年目看護師にアドバイスをし、1~2年目それぞれの成長を期待する意図的な教育体制にしています。

1年目自らが、学習会のためにベッドメイキングの業務基準や無菌操作や包帯法の手順表を作成し資料に沿って実践しました。日勤スタッフは見学し、最後に良かった点や改善点について助言がありました。三佐川師長さんより「特に見えない部分のシーツのしわや布団のかけ方も配慮が必要。吐き気のある患者の設定で、症状の声掛けだけではなく患者の顔色や表情にも目を向けよう。全体的に良くできていた」。1年目看護師は「計画や練習で大変だった。頑張っただけでも練習した甲斐があった。良い評価をもらえ達成感で感動した」と話されました。



## 心に残った看護：プリセプター会議【10-2】

12か月目のテーマは「2年目に向けての自己の課題」「心に残った看護」でした。それぞれが受け持った患者さんの看護体験をもとに、活発な意見交換が行われました。「患者さんが緩和ケアを選択する時、簡単に決められない中で納得した治療を受けるのは難しい。だからこそチームで情報を共有していくことが大事」「患者さんの思いを100%わかるのは難しいが、そばにいても意味がある」など、患者さん・ご家族への意思決定支援や看護を行う難しさを感じながらも、チームの力を得て、



患者さんに向かう新人看護師さんたちの1年間の成長した姿がありました。10-2では「看護をみせる」「共に学ぶ」ことを大切にしていることがわかりました。

## 編集後記

3月は別れの涙あり、仲間を迎える希望ありと、少し複雑な思いの季節です。新旧の仲間とのつながりを深め、一緒に前へ進んでいきたいものです。1年間、皆様のご協力に感謝申し上げます。来年度も宜しく願いいたします。キャリア支援室一同